

開講日	2010年4月期 金曜日18:30-20:30	講義場所	病院3階大ホール、研究棟11階講義室A	医	技	保
				●	●	●
コーディネーター	名古屋市立大学 津田洋幸			※●:コア科目、○:選択科目		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】 医療現場において医師、看護師、保健師、助産師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士等のスタッフにあるべき技能・心構えを近隣病院の管理者トップの立場より語っていただき、医療現場への復帰とキャリアアップを促すプログラムです。 【期待される成果】 医療現場に復する際に、多くの職種において患者さんにより良い治療を提供するために、組織の人間としてまたはチーム医療を実践する上で、直面する諸問題に対する理解力・対応力を醸成できる。各講師に施設の特徴を紹介していただき、復帰支援における職場の情報を提供する。
----------------------------	--

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
	1	名古屋市立大学病院のめざすもの	大学病院は今、冬の時代といわれています。しかし大学病院は常に医学・医療のトップランナーとして走り続けなくてはなりません。大学病院に勤務する医師、看護師、コメディカル、事務職員がチーム医療を実践しながら、如何にトップランナーであり続けられるか、名古屋市大病院の実践を紹介します。	4月9日 ※医学研究棟11階講義室A	山田和雄(名古屋市立大学病院院長)
	2	選ばれる病院と選ばれる医療従事者	医師不足・看護師不足に起因する医療崩壊と言われる中、病院としてできることは、医療従事者に選ばれる病院になることであり、それは“やりがい”、“働きがい”のある病院となることである。一方、そのような病院に最も求められるのは優秀な人材であり、病院から選ばれる医療従事者になることである。	4月16日	石川 清(名古屋第二赤十字病院院長)
	3	あなたは、何ができますか？—自分が生きていた証しを残そう—	医療を行なう側からの視点ではなく、それを受ける側から見て我々はサービス提供を考えなくてはならない。急性期医療から在宅まで家族の立場になり、医療人はどこまでそれを実践できるのでしょうか？	4月23日	小林勝正(さくら病院院長)
	4	キャリアアンカーを見つけましたか	私は病院の基本理念を「奉仕、笑顔、満足」としました。第一級の医療を提供する誇りが生む笑顔、そして患者さんの笑顔です。患者さんとスタッフが満足できる医療を提供し、結果が出るまで全員で頑張る病院です。私のキャリアアンカーは「自分がやりたいと思うことをやる」です皆さんのキャリア継続を願う先輩からのメッセージです。	4月30日	津田喬子(名古屋市病院局スーパーバイザー・東市民病院 名誉院長)
	5	医療現場で変化・進化をしていること、していないこと	医療現場では、科学的、技術的には日進月歩しています。それらに対応できるよう学習し個々が進化しなければなりません。しかし、人の心、特に疾病をかかえた患者さんの心情は意外と変わっておりません。私はそんな心に対応できる感性を大切にする方を尊重します。	5月7日	中北武男(総合大雄会病院院長)
	6	愛知県のがん看護の均てん化を目指して	当院は愛知県のがん診療連携拠点病院で、他の14病院と連携してがん看護の均てん化を図ることが責務と考えています。そのためのジェネラリスト育成プログラムによる教育計画と他病院との協力体制を中心に、がん専門病院におけるキャリア開発についてお話しします。	5月14日	兵藤千草(愛知県がんセンター中央病院 副院長兼看護部部長)
	7	老人医療を通して見える医療現場	超高齢化社会の出現に伴って、医療人全てが避けて通れない老人医療に携わってきた結果、私達が目指すべき姿はどんなものなのか、そして現状は…。病院の歩んできた道とともに示したい。	5月21日	伊藤正博(富田病院院長)
	8	医療関係職種の役割分担と連携における、看護職のキャリア支援に望むこと・望まれること	勤務医の負担軽減を目的に、医療関係職種の役割分担と連携が22年度の診療報酬改訂で評価される。看護職が責任を持って役割を引き受けるための教育と自己啓発、厚生労働省の「新人看護職員研修ガイドライン」等を用いて述べる。	5月28日	岩田広子(名古屋市立大学病院副院長・看護部部長)
	9	低医療費政策下における借行会の経営戦略	医療経営はその時々々の医療経済や医療制度の変化によって影響や地域特性によっても医療機関の性格が規定される。借行会グループは透析、循環器、癌治療を中心として全国的に展開しているが、これまでの発展は国の規制との戦いであった。借行会がどのようにイノベーションを起し創造的に発展してきたのかを示す。	6月4日	川原弘久(借行会グループ会長)
	10	地域医療の弱点と病院の取り組み—地域の病院は埋もれたあなたの能力を求めています—	医師・看護師の都心部集中と医師の開業化、勤務医不足の原因を追求し、解消するための当院の取り組みを紹介するとともに医療環境の適正化を提案します。	6月11日	水野 章(いなべ総合病院院長)
	11	地域で救急・急性期医療を実践する	医療関係者はすべて「人の支えになりたい」との高い公徳心を持っています。急性期医療をとおして病院としての使命を果たすためには、一人一人の力が十分発揮できる環境の整備が必須です。地域の急性期病院としての取り組みの一端を概説します。	6月18日	吉川公章(大同病院院長)
	12	総合病院がISOを取得することの意味	医療現場で働く私たちは利用していただく皆様に、安心・安全な医療を提供することができてこそ評価されることになります。この目的に向かって前進し続けるために当院はISO取得にチャレンジしました。ISO取得病院としての活動の一端を紹介します。	6月25日	鈴木克昌(刈谷豊田総合病院院長)
	13	看護という専門職を考える時工夫次第第一努力次第第一自分次第	仕事を続ける中で、誰もが自分の「職業選択」はこれで良かったのかと悩んだ経験があると思う。そんな時私達の手を引っ張り、背中を押したものはきっと同じ気がする。今回臨床現場に見る矛盾を再認識し、どんな環境が職業倫理を高揚させてくれるのかを考えてみたい。	7月2日	野村勢津子(JA愛知厚生連 総合対策室看護担当専門官)
	14	ワークライフバランスに基づいた病院経営	本講義では、単に女性医師の離職防止策にとどまらず、地域医療の中で勤務医のワークライフバランスを確保し、労働環境を守っていく方策を述べたいと思います。	7月9日	清野佳紀(大阪厚生年金病院名誉院長 総括医療顧問)
	15	名古屋市立5病院の役割と今後の展望 —集中と選択の立場から—	年の医療崩壊は目に余るものがあるが、特に自治体病院における病院機能の弱体化が社会問題となっている。名古屋市も5市立病院の在り方が問題とされて久しい。自治体病院として本来の役割を果たすべく進めている改革の現状と将来展望を語りたい。	7月16日	上田龍三(名古屋市病院局長・名古屋市立大学大学院医学研究科特任教授)